

「奉安殿」の残存

—学校と地域の連携を考える—

国際文化学部
日本文化学科
准教授
佐喜本 愛



研究シーズの紹介

戦前の小学校には「奉安殿」という建物がありました。この「奉安殿」は、天皇の写真（御真影）と「教育勅語」を納めるために地域住民が自主的に造った建造物で、戦前の天皇制教育の象徴と言われます。よって、戦後はGHQの指令により、撤去・解体が義務づけられました。

しかし、近年、撤去されたはずの奉安殿が、全国にはいく

つか残されていることが指摘されています。

本研究は、福岡県京奉安殿残存調査を行い、奉安殿が6つ残されていることを明らかにしました。撤去が命じられた「奉安殿」が、なぜ残されたのか。その理由の中に学校と地域の人々との連携の在り方を考える研究を行っています。



新たな文化遺跡の 発見

- 戦前・戦後・現在をつなぐ地域の新たな文化遺産として紹介します。



① 仲津小学校



② 祓郷小学校



③ 下城井小学校



④ 上城井小学校



⑤ 小学校



⑥ 節丸小学校

- この6つの奉安殿は、戦後、GHQの指令に従い解体し、小学校の外に移設されていました。
- 戦後、英霊廟、納骨堂として使用されていることが確認されました。

期待される活用シーン

- 地域の活性化、町おこしのために、地域の歴史・文化的情報を知りたい



これまで自治体でも把握していなかった、戦前の貴重な文化遺産として紹介できます

仲津小学校の奉安殿は、行橋市の戦争遺跡として2018年12月に移設されました。

- 平和教育として子ども達に材料を提供したい



戦前の学校教育について「現物」を用いて、リアルに説明することができます。

その他の研究テーマ

学校文化史に関する研究
モノと学校教育